

事業計画書(起業)

(1)申請者の概要等(項目を確認の上、記載してください。選択項目は、該当するものに☑または■にしてください。)

①申請者

ふりがな 氏名	おうみ たろう 近江 太郎	生年月日 (年齢)	☐昭和 ☑平成 3年10月22日 (30歳)
(募集後の設立で創業済みの場合) ふりがな 会社名	ピワコシヨクヒン(カ) 琵琶湖食品株式会社	法人番号	123456789012
連絡先住所等	〒 520 - 0806 滋賀県大津市打出浜2-1	本事業創業 直前の職業	☐ 1. 会社役員 ☐ 2. 個人事業主 ☑ 3. 会社員 ☐ 4. 専業主婦・主夫 ☐ 5. パートタイマー・アルバイト ☐ 6. 学生 ☐ 7. その他 ()
	TEL/携帯 077-999-1500		
	FAX 077-999-1512		
	E-mail ●●●●@●●●●		
本事業以外の 事業経営 経験	☑ 事業を経営したことがない。 ☐ 事業を経営したことがあり、現在もその事業を続けている。 ↳ 事業形態[☐ 個人事業 ☐ 会社 ☐ その他] 事業内容[] ※応募事業と類似の事業の場合は、差別化している点を「(2)⑤事業の具体的な内容」に記載してください。 ☐ 事業を経営していたが、既にその事業をやめている。(やめた時期: 年 月)		
職歴	H25年4月	(株)志賀物産 営業部(近江牛の販売)に就職 5年	
	H30年4月	(株)志賀物産 新製品開発部に異動 2年	
	R2年4月	大津食品(株) 製品開発部(近江牛加工品開発)に転職 2年	
	R4年4月	琵琶湖食品(株)設立 代表取締役就任	

②実施形態(予定・見込み含む)

開業・法人設 立日	※補助事業期間内に開業または法人設立を行う必要があります。 令和 4年 4月 10日	滋賀県への転 入日	(県外居住者のみ) 令和 年 月 日
事業実施地	〒 520 - 0806 滋賀県大津市打出浜2-1	法人名 (屋号)	琵琶湖食品株式会社
主たる業種 (日本標準産 業分類中分類 を記載)	中分類名 : 食料品製造業 コード(2桁) : 09	事業形態	☐ 1. 個人事業 ↳ ☐ 補助事業期間中の法人化 も検討している ☑ 2. 会社設立 ↳ ☑ 2-1 株式会社 ☐ 2-2 合名会社 ☐ 2-3 合資会社 ☐ 2-4 合同会社 ☐ 3. その他 ()
資本金また は出資金 (会社)	5,000 千円 (うち大企業からの出資 : - 千円)		
株主または 出資者数 (会社)	1 名 (うち大企業からの出資 : - 名)		
役員・ 従業員数	合計 3 名 内訳 ①役員 : 1 名 (法人のみ) (うち大企業の役員または職員を兼ねている者 : 名) ②従業員 : 名 ③パート・アルバイト : 2 名		
事業に要する許認可・免許等 (必要な場合のみ記載)	許認可・免許等名称 : 営業許可、食品衛生責任者 取得見込み時期 : R4年5月中に取得見込み		

⑤地域社会が抱える課題

(この事業を通じて解決を目指す地域課題について、事業実施予定地域におけるサービスの現在の供給状況の分析などを交えて、具体的に記載してください。)

※地域課題の対象となる地域の実情に合わせて、新事業で解決できる課題をあげてください。

募集要項の9ページの地域の課題と結び付けて、新事業の地域課題解決への有効性を説明してください。

例えば、

- ・対象地域における2000年以降の近江牛生産農家の減少状況を統計から説明する。
- ・一方、高級食材近江牛の需要は安定していることを説明
- ・近江牛生産農家の減少原因が、収益効率の悪さのため事業承継が進まないことだと判明。
近江牛の需要を高めるために加工食品を開発することにより、生産農家の事業承継を促す。

⑥事業の具体的な内容

(事業の実現可能性(サービスの独自性や優位性、需要見込み、収益見込み、実施体制など)に関する事項を交え、具体的に記載してください。)

事業の実現可能性について

例えば、

これまで近江牛の高級食材を生産する過程で廃棄していた部位を再利用することにより、加工業者の収益性を高め、農家からの買取価格をアップする。

生産農家の収益性が高まることで、若い世代への事業承継を促進する。

・サービスの独自性や優位性

従来廃棄していた部位等を使った「ふりかけ」「だし汁」を当社独自の「〇〇〇〇」製法により加工・生産する。
味・簡便性・保存性に優れており、既存製品より優位性がある。

・需要見込み

当初3年間は、近畿エリアの百貨店/スーパーを中心に贈答用の販売を展開する。

中元/歳暮/カタログギフト等で「近江牛ブランド製品」として、「ふりかけ」「だし汁」等を展開する。

近江牛の生産が増えて原材料の供給が安定してきたら、市販用の製品開発と東京圏での販売を見込む。

(例) 近畿圏の百貨店/スーパーの贈答品売上規模 60億円×0.5%=3000万円 を販売目標

これを毎月の販売に落とし込むと、

25万円/1得意先×10社×12ヶ月=3000万円

・収益見込み

初年度は、9ヶ月の営業で大きな利益は見込めないが、2年目以降収益化の見込み。

販売単価¥2000 2000円×125セット/1得意先=25万円/月

・実施体制

当面の生産体制は、申請者とパート2名で行う。売上原価/売上高率は40%を見込んでおり、粗利益が大きいことから大量生産に移行するまでは「〇〇〇〇」製法以外の生産工程は手作業で行います。

⑦本事業を行う動機・きっかけおよび将来の展望

(事業実施予定地域の市町村や商工会議所・商工会等と既に相談をしたことがある場合は、その旨も記載してください。)

例えば、

本事業を行う動機・きっかけ

本事業を起業することになったのは、「〇〇〇〇」製法の開発がきっかけとなりました。大学時代に研究室で研究していた技術ですが、卒業後も研究室に通い、教授と協力して実用化にめどをつけました。食品の廃棄ロスにつながる技術であり、事業化して地域の活性化に協力していきたいと考えています。
※「〇〇〇〇」製法の開発について、さらにその優位性・強みを書いてください。

将来の展望

現状入手できる原材料の量には限界があります。主力の近江牛高級食材は日本のみならず海外でも需要が高いため、副産品で生産農家の収益性を高めます。近江牛生産農家の事業承継が進み、生産量がアップすれば、大量生産のための機械化を進めます。将来的には、①贈答品⇒一般食品へ、②大消費地である関東圏へ販路を広げる、③近江牛ブランドでの輸出等売り上げを拡大していきます。
※売り上げの拡大が起業から何年後の目標となるかや大量生産によるコストダウンは可能かなども説明すると良いと思います。

事業実施予定地域の市町村等への相談実績

大津商工会議所に起業にあたり相談しました。起業塾への参加や工場の賃貸物件を探す際の支援をしていただきました。また、現在は資金面の安定化のために金融機関からの融資についてアドバイスを受けています。

⑧本事業の知識、経験、人脈、熱意

例えば、

知識

これから新しく事業化していく技術であり、「〇〇〇〇」製法については開発者として誰よりも知識があります。

経験

事業家としての経験は未知数ですが、大津商工会議所の起業家塾で起業のための基礎は学びました。大津商工会議所はじめ、皆様のご支援をいただいて必ず「〇〇〇〇」製法による近江牛の加工品の事業家を成功させます。

人脈

大学の研究室では、産学連携で近江牛の生産農家と加工品の開発について研究してきました。また、生産農家のある地域振興のために、商工会とも連携してきましたので、今後原材料を仕入れる対象となるエリアに大きな人脈があることが強みです。大学の研究室も、引き続き協力してさらに進化した技術開発を進めることになっています。

熱意

自分でここ十数年取り組んできた「〇〇〇〇」製法の実用化ですので、必ずや成功して世界の食文化に貢献します。

⑨地域活力の向上への波及効果

(事業が雇用や売上げ、地域の活性化などにどのように繋がるかについて記載してください。)

例えば、

雇用や売上への波及効果

起業当初は、近江牛ブランドを前面に出して、贈答用の加工品の販売から入ります。

起業3年間くらいは販売エリアも近畿圏に絞って活動していきます。

生産農家の収益性が上がってくると近江牛の生産量の増加が期待できますので、次のステップに入ります。

起業4-7年目は、一般向けの汎用品の生産に入るため、大量生産のできる工場の建設をします。

販売力強化のための営業要員・新製品開発&マーケティング要員・生産要員の増強が必要になります。

この段階で、従業員は100人体制、現在廃棄している近江牛の部位の仕入れは、〇〇トンになると見込みます。

販売エリアも、近畿圏から関東圏に拡大していきます。

起業10年目を目途に、アジア特に中国を中心に輸出を開始する計画です。

地域の活性化への効果

私の出身地である△△エリアは、古くから近江牛の産地です。

近江牛ブランドは、これまでのマーケティング戦略で拡大してきましたが、流通コスト(商流や物流)のために、生産農家の収益は縮小してしまいました。

このため、若い世代への事業承継が進まず、廃業に追い込まれる生産農家もあります。

高級食肉を生産した後、従来廃棄されていた部位を「〇〇〇〇」製法で製品化することにより、流通業者の利益が増え⇒生産農家への収益分配が増えれば、若い世代への事業承継が進むと考えます。

△△エリアの近江牛生産農家の生産量を、起業5年後に10%アップ、7年後に15%アップ、20%アップが目標です。

当社の原材料の仕入れが〇〇トンになれば可能だと考えます。

⑩本事業全体に係る資金計画

(事業の立ち上げ(準備から本事業期間の終了までの間)に必要なすべての資金と調達方法を記載してください。)

(単位:千円)

必要な資金		金額	調達の方法	金額
設備資金	(内容)		自己資金	2,350
	機械装置	3,300	金融機関からの借入金	
	改装費	1,100	(調達先)	
			その他(本事業の売上金、親族からの借入金等) (内容) 本事業の売上金	8,250
設備資金の合計		4,400		
運転資金	(内容) 敷金	300	滋賀県起業支援金交付申請額	2,000
	原材料費/水道光熱費	3,300	(補助事業期間終了後に審査等を経てお支払いする形となりますので、起業支援金支払までの間、応募者ご自身で滋賀県起業支援金交付申請額相当額を手当していただく必要があります。)	
	人件費	2,400		
	店舗等借入費	1,100		
	広報費	550		
	その他	550		
運転資金の合計		8,200		
合計		12,600	合計	12,600

《滋賀県起業支援金交付申請額相当額の手当方法》	
方法	金額
自己資金	2,000
金融機関からの借入金 (調達先)	
その他 (調達先)	
合計(上表の起業支援金交付申請額と一致)	2,000

《金融機関からの外部資金調達について》
(該当するものに☑または■にしてください。)
<input type="checkbox"/> 既に調達済み
<input type="checkbox"/> 補助事業期間中に調達見込みがある
<input type="checkbox"/> 将来的に調達見込みである

⑪事業スケジュール

実施時期	具体的な実施内容
1年目	事業開始が7月を予定しています。1年目は7ヶ月の事業期間となります。 売上高 10,500千円、営業利益 233千円 従業員は、包装工程のパート2名ですが、1名は事務職も兼務します。 生産工程は「〇〇〇〇」製法が必要ですので、申請者が担当します。 1年目の工場稼働率は、30%程度を見込んでいます。
2年目	2年目は、年間を通して事業を行います。 売上高 21,600千円、営業利益 3,660千円 売上が年間を通してあるので、利益は安定してきます。 工場稼働率は、60%程度を見込みます。
3年目	3年目は、取引先の拡大を図り、工場の稼働率を100%②近づけます。 売上高 27,000千円、営業利益 5,700千円 工場の稼働率が上がるので、パートは1人増やして3人体制とします。 生産能力を確保するため、新工場建設等の検討に入ります。

⑫売上・利益等の計画(事業に係る部分のみ記載してください。)

※事業年度ベースで記入してください。

	1年目 (R4年7月～R5年3月期)	2年目 (R5年4月～R6年3月期)	3年目 (R6年4月～R7年3月期)	
(A)売上高	10,500 千円	21,600 千円	27,000 千円	
積算基礎	例 ①1社あたり売上150千円/月 ×10社×7ヶ月=10,500千円 ②全国市場規模×成長率× 市場シェア(全国市場規模に 対する滋賀県シェア%×当社 の県内シェア)	例 ①1社あたり売上150千円/月 ×15社×12ヶ月=21,600千円 ※ 審査会で説明できる合理的な 計算方法で記入してください。	例 ①1社あたり売上150千円/月 ×20社×12ヶ月=27,000千円 ※ 審査会で説明できる合理的な 計算方法で記入してください。	
(B)売上原価	4,200 千円	8,640 千円	10,800 千円	
積算基礎	例 ①原材料/売上高比率35% ②水道光熱費/売上高比率5% ※ 審査会で説明できる合理的な 計算方法で記入してください。 上記の場合、比率の具体的な 根拠が必要です。	例 ①原材料/売上高比率35% ②水道光熱費/売上高比率5% ※ 審査会で説明できる合理的な 計算方法で記入してください。 上記の場合、比率の具体的な 根拠が必要です。	例 ①原材料/売上高比率35% ②水道光熱費/売上高比率5% ※ 審査会で説明できる合理的な 計算方法で記入してください。 上記の場合、比率の具体的な 根拠が必要です。	
(C)売上総利益(A-B)	6,300 千円	12,960 千円	16,200 千円	
(D)販売管理費	6,067 千円	9,300 千円	10,500 千円	
内 訳	人件費	3,200 千円	4,800 千円	6,000 千円
	家賃	1,400 千円	2,400 千円	2,400 千円
	減価償却費	267 千円	400 千円	400 千円
	支払利息	千円	千円	千円
	その他経費	1,200 千円	1,700 千円	1,700 千円
(E)営業利益(C-D)	233 千円	3,660 千円	5,700 千円	
従業員数	2 人 (うちパート・アルバイト 2 人)	2 人 (うちパート・アルバイト 2 人)	3 人 (うちパート・アルバイト 3 人)	

(3)ビジネスプランコンテストの受賞や他の補助金等の実績説明(該当案件がある場合のみ記載)

＜ビジネスプランコンテストの受賞実績＞

①コンテストの名称	〇〇〇〇〇〇〇〇
②主催/後援	〇〇〇〇〇〇〇〇
③受賞した内容	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
④受賞時期	〇〇 年 〇 月 〇 日

＜他の補助金等の交付を受けた実績＞

①補助金・委託費名称	〇〇〇〇〇〇〇〇
②事業主体(関係省庁等)	〇〇〇〇〇〇〇〇
③事業計画名	〇〇〇〇〇〇〇〇
④実施時期/補助金等金額	〇〇 年 〇 月 / 〇〇〇 千円

(4)経費明細表(「(2)⑩事業全体に係る資金計画」の設備資金および運転資金の内容の中から、補助事業期間中に補助対象とするものを記載してください。)

※具体的な期間:交付決定日～補助事業完了日(最長令和5年1月31日まで)

(単位:円)

経費区分		事業に要する経費 (消費税込)	補助対象経費 (消費税抜)	起業支援金 交付申請額	補助対象経費(消費税抜) の積算基礎
I 人件費	(1)人件費	1,000	1,000		パート2名 時給¥1000×5時間/日×20 日/月×5ヶ月×2人=1,000 千円
II 事業費	(1)店舗等借入費	1,100	1,000		200千円×5ヶ月=1,000円
	(2)設備費	4,400	4,000		機械装置 3,000千円 改装費 1,000千円
	(3)原材料費				
	(4)知的財産等関連経費				
	(5)謝金				
	(6)旅費				
	(7)マーケティング費				
	(8)広報費	550	500		パンフレット ¥250/冊×1000=250千円 SNS広告 250千円
	(9)外注費				
III 委託費	(1)委託費				
合 計		(A)	(B)	(C)	
		7,050	6,500	2,000	

※(C)の金額は、(B)の金額の1/2以内とし、千円未満を切り捨てた数字を記載してください。

※消費税は、すべて10%で計算してください。

※人件費は、通勤手当のみ税抜計算をしてください。その他の給与・手当等は税込額と税抜額が同額になります。

※経費明細表の根拠となる資料(見積書、価格表等)がある場合は添付ください。

事業計画書(事業承継・第二創業)

(1)申請者の概要等(項目を確認の上、記載してください。選択項目は、該当するものに☑または■にしてください。)

①申請者

ふりがな 氏名	おうみ たろう 近江 太郎	生年月日 (年齢)	☐昭和 ☑平成 3年10月22日 (30 歳)
住所	〒 〇〇 - 〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇		
滋賀県への転 入日(予定日)	令和 年 月 日 (県外居住者のみ)		
TEL/携帯	〇〇〇〇〇〇〇〇	FAX	〇〇〇〇〇〇〇〇
現職	大津食品(株)製品開発部勤務	E-mail	●●●●@●●●●
本事業以外の 事業経営 経験	<input checked="" type="checkbox"/> 事業を経営したことがない。 <input type="checkbox"/> 事業を経営したことがあり、現在もその事業を続けている。 ↳ 事業形態[☐ 個人事業 ☐ 会社 ☐ その他] 事業内容[] ※応募事業と既存事業の違いを「(2)⑥事業の具体的な内容」に記載してください。 <input type="checkbox"/> 事業を経営していたが、既にその事業をやめている。(やめた時期: 年 月)		
職 歴	H25年4月 (株)志賀物産 営業部(近江牛の販売)に就職 5年 H30年4月 (株)志賀物産 新製品開発部に異動 2年 R2年4月 大津食品(株) 製品開発部(近江牛加工品開発)に転職 2年 R4年7月 琵琶湖食品(株)の事業を承継 代表取締役就任予定		

②事業者(事業承継・第二創業前)

ふりがな 事業者名	琵琶湖食品株式会社		法人番号	123456789012	
ふりがな 代表者	〇〇〇〇	性別	<input checked="" type="checkbox"/> 男 <input type="checkbox"/> 女	生年月日 (年齢)	<input checked="" type="checkbox"/> 平成 32年6月28日 (64 歳)
住所	〒 520 - 0806 滋賀県大津市打出浜2-1				
TEL/携帯	077-999-1500		FAX	077-999-1512	
役員・ 従業員数	合計	〇〇 名	内訳	①役員 : 〇〇 名 (法人のみ) (うち大企業の役員または職員を兼ねている者 : 名) ②従業員 : 〇〇 名 ③パート・アルバイト : 〇〇 名	
主たる業種 (日本標準産 業分類中分類 を記載)	中分類名 : 食料品製造業	資本金または 出資金(会社)	〇〇 千円 (うち大企業からの出資 0千円)		
	コード(2桁) : 09	株主または出 資者数(会社)	0 名 (うち大企業からの出資 0名)		
事業概要	香辛料の製造販売				
主な株主ま たは出資者	株主名または出資者名	所在都道府県名	大企業出資の有無	出資比率(%)	
	〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇	無	80%	
	〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇	無	10%	
	〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇	無	10%	
役員一覧	氏名	生年月日	役職名		
	〇〇〇〇	<input checked="" type="checkbox"/> 昭和 ☐平成 32年6月28日	〇〇〇〇		
	〇〇〇〇	☐昭和 ☑平成 〇年〇月〇日	〇〇〇〇		
	〇〇〇〇	☐昭和 ☑平成 〇年〇月〇日	〇〇〇〇		
		☐昭和 ☐平成 年 月 日			

③新事業概要

新事業開始日 (予定日)	令和 4 年 7 月 1 日	業種(日本標準産業分類中 分類を記載)	中分類名 : 食料品製造業
区分	<input checked="" type="checkbox"/> 事業承継 <input type="checkbox"/> 第二創業		コード(2桁) : 09
事業実施地	〒 520 - 0806 滋賀県大津市打出浜2-1		
事業に要する許認可・免許等 (必要な場合のみ記載)	許認可・免許等名称 : 営業許可、食品衛生責任者		
	取得見込み時期 : R4年6月中に取得見込み		

(2)事業内容

(事業全体について、詳しく記載してください。枠に収まらない場合は、適宜広げてください。複数ページになっても構いません。)

①事業計画名 (事業内容を的確に表現した簡潔な名称を30字程度で記載してください。)
「〇〇〇〇」製法を活用して、近江牛農家の収益改善及び事業承継促進を図る事業計画
②事業概要 (地域課題およびその課題に資する事業内容について、簡素に100文字程度で記載ください。)
地域の課題 近江牛の生産を引き継ぐ若い世代が不足している その課題に対する事業内容 高級食材の部位はもちろん、廃棄部位を使った近江牛の加工品開発で近江牛の需要を増やす
③滋賀県が地域再生計画において定める分野 (起業支援金の対象となる項目に <input checked="" type="checkbox"/> または <input type="checkbox"/> にしてください。)
<input checked="" type="checkbox"/> 地域活性化関連 <input type="checkbox"/> まちづくりの推進 <input type="checkbox"/> 過疎化地域等活性化関連 <input type="checkbox"/> 買物弱者支援 <input type="checkbox"/> 地域交通支援 <input type="checkbox"/> 子育て支援 <input type="checkbox"/> 社会福祉関連分野 <input type="checkbox"/> DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進 <input type="checkbox"/> CO2ネットゼロ社会の実現 <input type="checkbox"/> SDGsにつながり持続可能な滋賀を目指す取組 <input type="checkbox"/> その他()
④Society5.0関連業種等の付加価値の高い産業分野 (事業がSociety5.0関連業種等の付加価値の高い産業分野であることを具体的に記載してください。)
「〇〇〇〇」製法は、△△を応用した食品の乾燥法で、食品ロスの削減に貢献します。 また、この技術を応用することにより、従来にない「未来の食品」が開発される可能性があります。 ※できるだけ詳しくSociety5.0に関連付けて説明をしてください。 ※事業承継・第二創業での応募の場合は、必ず記入してください。

⑤地域社会が抱える課題

(この事業を通じて解決を目指す地域課題について、事業実施予定地域におけるサービスの現在の供給状況の分析などを交えて、具体的に記載してください。)

※地域課題の対象となる地域の実情に合わせて、新事業で解決できる課題をあげてください。
募集要項の9ページの地域の課題と結び付けて、新事業の地域課題解決への有効性を説明してください。
例えば、

- ・対象地域における2000年以降の近江牛生産農家の減少状況を統計から説明する。
- ・一方、高級食材近江牛の需要は安定していることを説明
- ・近江牛生産農家の減少原因が、収益効率の悪さのため事業承継が進まないことだと判明。
近江牛の需要を高めるために加工食品を開発することにより、生産農家の事業承継を促す。

⑥事業の具体的な内容

(事業の実現可能性(サービスの独自性や優位性、需要見込み、収益見込み、実施体制など)、既存事業との違いに関する事項を交え、具体的に記載してください。)

事業の実現可能性について

例えば、

これまで近江牛の高級食材を生産する過程で廃棄していた部位を再利用することにより、加工業者の収益性を高め、農家からの買取価格をアップする。

生産農家の収益性が高まることで、若い世代への事業承継を促進する。

・サービスの独自性や優位性

従来廃棄していた部位等を使った「ふりかけ」「だし汁」を当社独自の「〇〇〇〇」製法により加工・生産する。
味・簡便性・保存性に優れており、既存製品より優位性がある。

・需要見込み

当初3年間は、近畿エリアの百貨店/スーパーを中心に贈答用の販売を展開する。

中元/歳暮/カタログギフト等で「近江牛ブランド製品」として、「ふりかけ」「だし汁」等を展開する。

近江牛の生産が増えて原材料の供給が安定してきたら、市販用の製品開発と東京圏での販売を見込む。

(例) 近畿圏の百貨店/スーパーの贈答品売上規模 60億円×0.5%=3000万円 を販売目標

これを毎月の販売に落とし込むと、

25万円/1得意先×10社×12ヶ月=3000万円

・収益見込み

初年度は、9ヶ月の営業で大きな利益は見込めないが、2年目以降収益化の見込み。

販売単価¥2000 2000円×125セット/1得意先=25万円/月

・実施体制

当面の生産体制は、申請者とパート2名で行う。売上原価/売上高率は40%を見込んでおり、粗利益が大きいことから大量生産に移行するまでは「〇〇〇〇」製法以外の生産工程は手作業で行います。

⑦本事業を行う動機・きっかけおよび将来の展望

(事業実施予定地域の市町村や商工会議所・商工会等と既に相談をしたことがある場合は、その旨も記載してください。)

例えば、

本事業を行う動機・きっかけ

本事業を起業することになったのは、「〇〇〇〇」製法の開発がきっかけとなりました。
大学時代に研究室で研究していた技術ですが、卒業後も研究室に通い、教授と協力して実用化にめどをつけました。
食品の廃棄ロスにつながる技術であり、事業化して地域の活性化に協力していきたいと考えています。
※「〇〇〇〇」製法の開発について、さらにその優位性・強みを書いてください。

将来の展望

現状入手できる原材料の量には限界があります。
主力の近江牛高級食材は日本のみならず海外でも需要が高いため、副産品で生産農家の収益性を高めます。
近江牛生産農家の事業承継が進み、生産量がアップすれば、大量生産のための機械化を進めます。
将来的には、①贈答品⇒一般食品へ、②大消費地である関東圏へ販路を広げる、③近江牛ブランドでの輸出等
売り上げを拡大していきます。
※売り上げの拡大が起業から何年後の目標となるかや大量生産によるコストダウンは可能かなども説明すると
良いと思います。

事業実施予定地域の市町村等への相談実績

大津商工会議所に起業にあたり相談しました。
起業塾への参加や工場の賃貸物件を探す際の支援をしていただきました。
また、現在は資金面の安定化のために金融機関からの融資についてアドバイスを受けています。

⑧本事業の知識、経験、人脈、熱意

例えば、

知識

これから新しく事業化していく技術であり、「〇〇〇〇」製法については開発者として誰よりも知識があります。

経験

事業家としての経験は未知数ですが、大津商工会議所の起業家塾で起業のための基礎は学びました。
大津商工会議所はじめ、皆様のご支援をいただいで必ず「〇〇〇〇」製法による近江牛の加工品の事業家を
成功させます。

人脈

大学の研究室では、産学連携で近江牛の生産農家と加工品の開発について研究してきました。
また、生産農家のある地域振興のために、商工会とも連携してきましたので、今後原材料を仕入れる対象となる
エリアに大きな人脈があることが強みです。
大学の研究室も、引き続き協力してさらに進化した技術開発を進めることになっています。

熱意

自分でここ十数年取り組んできた「〇〇〇〇」製法の実用化ですので、必ずや成功して世界の食文化に貢献します。

⑨地域活力の向上への波及効果

(事業が雇用や売上げ、地域の活性化などにどのように繋がるかについて記載してください。)

例えば、

雇用や売上げへの波及効果

起業当初は、近江牛ブランドを前面に出して、贈答用の加工品の販売から入ります。

起業3年間くらいは販売エリアも近畿圏に絞って活動していきます。

生産農家の収益性が上がってくると近江牛の生産量の増加が期待できますので、次のステップに入ります。

起業4-7年目は、一般向けの汎用品の生産に入るため、大量生産のできる工場の建設をします。

販売力強化のための営業要員・新製品開発&マーケティング要員・生産要員の増強が必要になります。

この段階で、従業員は100人体制、現在廃棄している近江牛の部位の仕入れは、〇〇トンになると見込みます。

販売エリアも、近畿圏から関東圏に拡大していきます。

起業10年目を目途に、アジア特に中国を中心に輸出を開始する計画です。

地域の活性化への効果

私の出身地である△△エリアは、古くから近江牛の産地です。

近江牛ブランドは、これまでのマーケティング戦略で拡大してきましたが、流通コスト(商流や物流)のために、生産農家の収益は縮小してしまいました。

このため、若い世代への事業承継が進まず、廃業に追い込まれる生産農家もあります。

高級食肉を生産した後、従来廃棄されていた部位を「〇〇〇〇」製法で製品化することにより、流通業者の利益が増え⇒生産農家への収益分配が増えれば、若い世代への事業承継が進むと考えます。

△△エリアの近江牛生産農家の生産量を、起業5年後に10%アップ、7年後に15%アップ、20%アップが目標です。

当社の原材料の仕入れが〇〇トンになれば可能だと考えます。

⑩本事業全体に係る資金計画

(事業の立ち上げ(準備から本事業期間の終了までの間)に必要なすべての資金と調達方法を記載してください。)

(単位:千円)

必要な資金		金額	調達の方法	金額
設備資金	(内容)		自己資金	2,350
	機械装置	3,300	金融機関からの借入金	
	改装費	1,100	(調達先)	
			その他(本事業の売上金、親族からの借入金等)	8,250
設備資金の合計		4,400	(内容) 本事業の売上金	
運転資金	(内容) 敷金	300	滋賀県起業支援金交付申請額	2,000
	原材料費/水道光熱費	3,300	(補助事業期間終了後に審査等を経てお支払いする形となりますので、起業支援金支払までの間、応募者ご自身で滋賀県起業支援金交付申請額相当額を手当していただく必要があります。)	
	人件費	2,400		
	店舗等借入費	1,100		
	広報費	550		
	その他	550		
運転資金の合計		8,200		
合計		12,600	合計	12,600

《滋賀県起業支援金申請額相当額の手当方法》	
方法	金額
自己資金	2,000
金融機関からの借入金 (調達先)	
その他 (調達先)	
合計(上表の起業支援金交付申請額と一致)	2,000

《金融機関からの外部資金調達について》
(該当するものに☑または■にしてください。)
<input type="checkbox"/> 既に調達済み
<input checked="" type="checkbox"/> 補助事業期間中に調達見込みがある
<input type="checkbox"/> 将来的に調達見込みである

⑪事業スケジュール

実施時期	具体的な実施内容
1年目	事業開始が7月を予定しています。1年目は7ヶ月の事業期間となります。 売上高 10,500千円、営業利益 233千円 従業員は、包装工程のパート2名ですが、1名は事務職も兼務します。 生産工程は「○○○○」製法が必要ですので、申請者が担当します。 1年目の工場稼働率は、30%程度を見込んでいます。
2年目	2年目は、年間を通して事業を行います。 売上高 21,600千円、営業利益 3,660千円 売上が年間を通してあるので、利益は安定してきます。 工場稼働率は、60%程度を見込みます。
3年目	3年目は、取引先の拡大を図り、工場の稼働率を100%②近づけます。 売上高 27,000千円、営業利益 5,700千円 工場の稼働率が上がるので、パートは1人増やして3人体制とします。 生産能力を確保するため、新工場建設等の検討に入ります。

(4)経費明細表(「(2)⑩事業全体に係る資金計画」の設備資金および運転資金の内容の中から、補助事業期間中に補助対象とするものを記載してください。)

※具体的な期間:交付決定日～補助事業完了日(最長令和5年1月31日まで)

(単位:円)

経費区分		事業に要する 経費 (消費税込)	補助対象経費 (消費税抜)	起業支援金 交付申請額	補助対象経費(消費税抜) の積算基礎
I 人件費	(1)人件費	1,000	1,000		パート2名 時給¥1000×5時間/日×20 日/月×5ヶ月×2人=1,000 千円
II 事業費	(1)店舗等借入費	1,100	1,000		200千円×5ヶ月=1,000円
	(2)設備費	4,400	4,000		機械装置 3,000千円 改装費 1,000千円
	(3)原材料費				
	(4)知的財産等関連経費				
	(5)謝金				
	(6)旅費				
	(7)マーケティング費				
	(8)広報費	550	500		パンフレット ¥250/冊×1000=250千円 SNS広告 250千円
	(9)外注費				
III 委託費	(1)委託費				
合 計		(A) 7,050	(B) 6,500	(C) 2,000	

※(C)の金額は、(B)の金額の1/2以内とし、千円未満を切り捨てた数字を記載してください。

※消費税は、すべて10%で計算してください。

※人件費は、通勤手当のみ税抜計算をしてください。その他の給与・手当等は税込額と税抜額が同額になります。

※経費明細表の根拠となる資料(見積書、価格表等)がある場合は添付ください。